

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-74

学校名・団体名	滋賀の技術を語る会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	技術分野における授業教材、スキルの継承
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>中学校技術・家庭科（技術分野）は、年齢構成が高く、これからの技術教育を担っていく若手教員が少ないのが現状である。</p> <p>そこで、スキルを持っている者が若手教員を引き込み、主催者・参加者ともに研鑽を積むとともに、これからの技術教育を担ってもらう若手教員への技術教育の伝授を目的とし、年間4～5回の予定で技術講習会、教材開発に取り組む。</p>	

## 活動の特色

「技術」という教科が好きで、「どうやったら面白い授業ができるだろうか」「どんな教材なら生徒は楽しく授業にとりくめるだろうか」「もっと腕を磨きたい」と考えている教員や技術分野の授業に興味がある者が集まっているため、1回、1回の活動に活気がある。レポート提出や参加義務などはないため、参加したい時に気楽に参加できるのも魅力である。また、会の終了時に「次回はこんなことをしてみよう」と提案を出し合い、内容を決定しているため、自分の持っているスキルを気楽に発表できる場としても活用できる。

昨年度は「技術を語る会」とし、参加者が次回の都合を相談して不定期に実施していたが、本年度より「滋賀の技術を語る会」と名称を改め、年間の開催日を決めて、計画的に各自の技術を持ち寄る取り組み方法を変更した。

## 活動の時期及び研修内容

- |         |                        |  |
|---------|------------------------|--|
| 平成 27 年 | 5 月 24 日 (日)           | 「B エネルギー変換に関する技術」の教材   |
|         |                        | ・3階建て以上における「階段の電灯」を組む  |
|         | 7 月 19 日 (土) ~20 日 (日) | 「A 材料と加工に関する技術」の教材   |
|         |                        | ・専門技術、伝統技術にふれる<br>木地師の里を訪れ、技術講習を受ける                                  |
|         | 12 月 23 日 (水)          | 「D 情報に関する技術」の教材  |
|         |                        | ・テストターの面白い活用方法の研修として<br>測定機器としてのテストターを活用して、電圧、電流以外のものを測定する電子回路を製作する。 |
| 平成 28 年 | 1 月 30 日 (土)           | 「C 生物育成に関する技術」の教材  |
|         |                        | ・年間栽培計画の立て方<br>・木組みを理様した木工パズルの製作                                     |
|         | 3 月 19 日 (土)           | 活動の振り返りと次年度の計画発案   |
|         |                        | ・内燃機関の基礎実験機器の製作<br>・今年度の活動の振り返りと次年度の年間計画の発案                          |

## 活動を通して

現在、滋賀県の技術・家庭科の教員は40代後半から50代が多く、これから10年ほどの間に退職が多くなる。しかし、これからの技術を担ってもらう若手教員は、時数や分野が制限された中で、技術の授業を受けてきた世代である。また、ものが豊かにあり、「自分で作る」機会の少ない中で生活をしてきているため、ものをつくる一工夫や、経験分野の広さ、使用してきた教材の豊かさ、発想するための着眼点など経験がものを言う部分では大学で学んでいるとは言え、不十分である。また、授業時数の少なさから、学校に1人しか配置されていないことがほとんどで、教具や教材の工夫などを相談できる相手がいないのが現状である。

「滋賀の技術を語る会」では、活動をどうして、いかに楽しい授業を展開するか、教材をどのように工夫していくか、製作のためのコツなどを、ベテラン教諭と若手教諭が一緒の取り組むことにより、よりよい授業を伝えていく工夫をしている。

参加体制は、ベテラン教諭3名は常に参加できるように調整し、それぞれが授業テーマを持ち寄って、若手に教員に技術伝授をできるようにしている。また、若手教員も今年度については、3名の熱心な先生がおられて、工夫した教材や技術などを持ち帰ってもらうことが1年を通して行うことができた。また、このような会を開いていることが、若手教員を通して伝えていただくことにより、ゆっくりではあるが、休日を使ってでも参加する価値がある会になっている。

昨年度までは、教材の製作などの材料を持ち寄ったりしていた。消耗品や材料費などをベテラン教諭に負担をかけていたが、今年度は、ちゅうでん教育振興助成を受け、製作や指導に必要なものを購入することができ、思い切った教材づくりに取り組むことができた。また、授業方法においてもベテラン教員の年間指導計画を参考に、ICT機器の活用、授業の中での有効な利用方法などの講習にも取り組むことができ、充実した活動に取り組むことができた。

